



ファッション・アート・カルチャーのハイシーズンを迎えるフランスに、日本の芸術文化が目白押し！！

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」 10月から始まる公式企画・最新情報のご紹介

すっかり肌寒い季節を迎えた10月のパリは、オールナイトで現代アートの展示、コンサート、文化イベントなどが街中で開催される「Nuit Blanche（ニュー・ブランシュ）」や、国際コンテンポラリーアートフェア「FIAC」、日本でも人気の高いチョコレートの見本市「Salon du chocolat（サロン・デュ・ショコラ）」など、引き続きカルチャーイベントが沢山行われます。

2018年7月より会期がスタートした日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」では、引き続き秋の文化シーズンに注目プログラムが続々と実施されます。メディアの皆様におかれましては、この機会に是非貴媒体にて、このジャポニスム 2018をご是非紹介下さいますよう、何卒宜しくお願いいたします。

■ 10月から始まるジャポニスム 2018 公式企画ラインナップ

<https://japonismes.org/press>

◀ 展覧会 ▶

※ラインナップは次頁に続きます、各企画の内容は次頁以降をご覧ください

タイトル	会期	会場
「安藤忠雄 挑戦」展	10月10日～12月31日	ポンピドゥ・センター
「縄文－日本における美の誕生」展	10月17日～12月8日	パリ日本文化会館
「明治」展	10月17日～ 2019年1月14日	ギメ東洋美術館
【特別企画】パリ東京文化タンデム 2018 「東京画 SHIBUYA-TOKYO CURIOSITY」	10月19日～11月18日	パリ4区庁舎
「京都の宝－琳派 300年の創造」展	10月26日～ 2019年1月27日	パリ市立テレルヌスキ美術館

◀ 舞台公演 ▶

タイトル	会期	会場
コンテンポラリーダンス－川口隆夫『大野一雄について』	10月2日～5日	パリ市立劇場 エスパス・カルダン
現代演劇シリーズ－松井周演出『自慢の息子』	10月5日～8日	国立演劇センター ジュズビリエ劇場
文楽	10月12日～13日	シテ・ド・ラミュージック
伶楽舎×森山開次	10月13日	フィルハーモニー・ド・パリ
太鼓 林英哲と英哲風雲の会	10月14日	フィルハーモニー・ド・パリ
日本舞踊	10月14日～15日	シテ・ド・ラミュージック
現代演劇シリーズ－岡田利規演出 『三月の5日間』リクイエーション	10月17日～20日	ポンピドゥ・センター

◀ 生活文化他 ▶

タイトル	会期	会場
禅文化週間	10月2日～7日	パリ市立劇場 エスパス・カルダン／パリ日本文化会館
「日本の食と文化を考える」シリーズ 日本へのクリエイティブな旅展「日本のガストロノミー：地方の食文化を中心に」	10月15日～19日	国際連合教育科学文化機関（UNESCO）本部
地方の魅力－祭りと文化	10月17日～27日	パリ日本文化会館／アグリマタシオン公園

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■ 10月の注目プログラム

12の地方自治体と連携し、各地伝来の7つの祭り・踊りと15の民俗芸能公演や生活文化企画を11日間にわたり集中的に紹介。まだフランスで十分には知られていない部分も含め、日本の各地方に根ざした、彩り豊かな文化を伝えます。

地方の魅力－祭りと文化

地方自治体等と連携し、日本各地で大切に守り伝えられてきた民俗芸能や、土地の人々に長く親しまれてきた生活文化を取り上げて集中的に紹介する特別期間を開催します。日本文化の多様性豊かな魅力に注目し、フランスでまだ知られざる日本を見つけてもらう機会とします。

平日はパリ日本文化会館にて、いろいろな土地に伝わる、民俗芸能公演、工芸品製作実演やワークショップ、写真パネル等の展示、講演等を通じ、日本の中にいかに彩り豊かな地方文化が育まれているか、それぞれどういう歴史を持ち、どのように育まれた文化なのか、各地はそれらをいかに活用し、守り、継承していこうとしているのかを、楽しく伝えます。

期間中の週末を含む20-22日には、パリ市民憩いの場所、アクリマクシオン庭園で、各地伝来の祭りや踊りを、華やかなパレード形式で、またステージを使って披露します。見学に訪れる方々にも一緒に踊りに参加していただくことを期待しています。

あわせて、同庭園内には、各地の「B級グルメ」を紹介する屋台や、観光ブースの設置も予定しています。

(参加自治体／五十音順)

市川市、岩手県、木曽町、岐阜県、高知県、五所川原市、徳島県、鳥取県、奈良県・奈良市、新潟市、兵庫県、山梨県・甲府市

詳細は特設サイトをご覧ください。 <https://matsuri.japonismes.org/>



報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

「展覧会」

建築家・安藤忠雄の半世紀に及ぶ挑戦の軌跡と未来への展望に迫る

「安藤忠雄 挑戦」展

国際的に著名な建築家、安藤忠雄(1941-)は、デビュー以来、常にその斬新な作品で建築界に衝撃を与えてきました。2017年、国立新美術館(東京)で開催された「安藤忠雄展—挑戦—」は、約30万人を動員し、建築展としては異例の高い関心を集めました。このたびはジャポニスム2018では、同展を再構成し、パリのボンポドゥ・センターにて開催します。

半世紀に及ぶ安藤建築の軌跡、そしてこれからの展望を、「空間の原型」「都市への挑戦」「風景の創造」「歴史との対話」という4つのセクションに分け、模型、スケッチ、ドローイングや映像、写真など、多数の貴重な資料を通して紹介します。中でも安藤の代表作のひとつ「光の教会」のファサードの再現、国立新美術館の展覧会においても大きな注目を集めた「直島プロジェクト」のインスタレーションなど、見どころの豊富な展覧会となります。

フランスにおいて近年とりわけ人気の高い日本の建築の魅力をパリ、さらには世界に向けて発信します。



「光の教会」 大阪府、1989年
撮影：松岡満男



「直島 ベネッセハウス」 香川県1992年/1995年
撮影：松岡満男

縄文時代の美を体現する国宝火焔型土器をはじめ、土偶や装身具など、多くの国宝や重要文化財を含む出土品を一堂で紹介

「縄文—日本における美の誕生」展

一万年もの長きにわたって続いた縄文時代。その時代に生きた人々の豊かな感性と、力強い造形美、そして精神文化は、21世紀を生きる私たちにも、深い示唆と刺激を与えてくれます。

1998年、国際交流基金がパリ日本文化会館で開催した「縄文展(JŌMON: l'art du Japon des origines)」は、日本の芸術に造詣の深いフランス人に新鮮な驚きと共に迎えられ、多くの人々を魅了しました。

今回、20年ぶりに再びパリで開催される本展覧会は、2018年夏、東京国立博物館で開催された特別展「縄文—一万年の美の鼓動」をパリ向けに再構成するものです。縄文時代の美を体現する国宝火焔型土器をはじめとした土器に加え、土偶や装身具など、国宝や重要文化財を含む出土品を一堂で紹介し、日本美の原点である縄文の美と、それを生み出した縄文人たちの豊かな精神文化の魅力を提示します。



重要文化財 「遮光器土偶」 縄文時代(晩期)・前1000~前400年
青森県つがる市木造亀ヶ岡出土 東京国立博物館蔵

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム2018 PR事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央(070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-5 JPR千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

激動の時代「明治」にスポットを当て、洋画、日本画などの近代絵画から、工芸、テキスタイルまで、多岐にわたる作品群により、明治という時代の美術的側面を紹介

「明治」展

明治 150 年、および本展会場となるギメ東洋美術館の創設者であるエミール・ギメの没後 100 周年を記念して、明治時代をテーマとする美術展を開催します。

日本の歴史の中でも、あらゆる分野、特に文化において、もっとも重要な変革の時代であった明治時代。本展は、日本にとって激動の時代であった明治時代に、美術的な側面から焦点を当てます。

フランスのコレクションに含まれる日本の知られざる作品の再発見と、その価値へのフォーカスをテーマに、浮世絵、日本画、油彩画から、陶器、漆器、金工品、テキスタイルなどの作品を展示します。また欧州のコレクションからも重要な作品を加えて明治の芸術を紹介します。



Boîte à décor de glycines
Commande de la Maison impériale
Andô Jûbei (1876-1953)
Émaux cloisonnés et peints, argent, or

【特別企画】パリ東京文化タンDEM 2018 「東京画 SHIBUYA TOKYO CURIOSITY」

伝統と現代性が共存し、さまざまな世代の人たちが行き交う渋谷は、対照的なものの共存とダイナミックな変化によって生じる創造的なカオスを内包しているといえるのではないのでしょうか。世界的にも有名な交差点がある渋谷は、新しいトレンドが生まれる東京の実験場です。そして日本全体が抱えているあらゆるパラドックス、魅力、はたまた異国情緒までもが詰め込まれている場所でもあります。

今回開催される写真展は、渋谷の個性に焦点を当てた初の展覧会です。アートプロジェクト『東京画』の 100 人の写真家が渋谷の貴重な光景、驚くような場面、わくわくする非日常そして穏やかな日常のシーンを捉えました。こうしたさまざまな視点が合わさることによって、渋谷の魅力を紹介します。



©Naoki Honjo



©Yukinori Tokoro

国宝 風神雷神図屏風のヨーロッパ初公開

宗達、光琳をはじめとする琳派の傑作が揃う、今後またとないであろう珠玉の展覧会

「京都の宝-琳派 300 年の創造」展

桃山時代後期に京都で生まれた琳派は、時と場所に縛られることなく、世代を超えた私淑により受け継がれた他に類を見ない美術の流派です。その潮流は、本阿弥光悦、俵屋宗達から、尾形光琳・乾山、近代の神坂雪佳に至るまで、古典的な要素を含みつつも、常にその時代における新しい美として受け継がれてきました。

本展では、特に京都での創造に絞り、日本国内でも公開される機会の稀な琳派の傑作を、国宝、重要文化財を含めて選りすぐって展示します。琳派芸術の中心をなす絵画をはじめ、書跡、陶芸、漆工などの調度品も取り上げ、日本美術の粋ともいえる琳派の総合性を示すとともに、その絢爛豪華な様式美、現代の生活美術全般にも通じる斬新なデザイン感覚を紹介します。



国宝〈風神雷神図屏風〉俵屋宗達筆 京都・建仁寺蔵

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

「舞台公演」

伝説の前衛舞踊家に寄せる全身全霊の讃歌。

コンテンポラリーダンス－川口隆夫『大野一雄について』

ダンスアーカイブの活用から生まれた作品『大野一雄について』は、舞踊シーンに独自の軌跡を描きつつ、上昇飛行を続けています。大野一雄の『ラ・アルヘンチーナ頌』(1977)、『わたしのお母さん』(1981)、『死海』(1985)のビデオを分析し、舞踏家の微細な動きから、観客の咳払いやビデオ収録の操作ミスまで「完全コピー」する一方、大野一雄の前衛映画『O 氏の肖像』(1969)を大胆に再解釈してパフォーマンス化する力強いコンセプトは、「オリジナルとは何か」「振付とは何か」という問いを投げかけ、「大野一雄」を知る、知らないを越えて、世界の観客を魅了してきました。

本作は、2016年のニューヨーク公演においてベッシー賞ファイナリストにミネートされました。



©Takuya Matsumi

観客の五感全てを呼び覚ます松井の代表作『自慢の息子』がフェスティバル・ドートンヌ・パリのプログラムにてヨーロッパ初演。テキストやイメージが精緻に積み重なる瞬間を見逃すな！

現代演劇シリーズ－松井周演出『自慢の息子』

40歳を超えて定職につかない独身の男「正」がアパートの一室に独立国を作る。そのアパートの家賃は年老いた母親の年金生活で賄われている。「ガイド」と呼ばれる男に導かれ、日本からの亡命を試みる兄妹と「正」の母親が、その独立国を訪ねる。アパートの隣の部屋には、騒音に近い音楽を聴きながら洗濯物を干す女が住む。彼らは自らの領土を主張しながら、奇妙な同居生活を始める。日本人独特の親子のつながりや登場人物たちの孤独を考察した2011年岸田國土戯曲賞受賞作品。

劇作家・演出家の松井周(1972-)は、2007年に劇団サンプルを結成。松井が描く猥雑かつ神秘的な世界の断片を継ぎ目なくドライブさせていく作風は、世代を超えて広く支持を得ています。本作がヨーロッパデビュー作品となります。



©大橋仁

ユネスコ無形文化遺産に登録されている舞台芸術・人形浄瑠璃文楽。
太夫、三味線、人形の三業が一体となって日本の情(じょう)の世界を表現します。

文楽

日高川入相花王～瀧し場の段

皇位継承を巡り追われている桜木親王は、「安珍」と称して身を隠していた。その安珍に一目惚れした地元有力者の娘・清姫。しかし安珍には既に恋人がいた。恋人と落ち合い道成寺へ逃げる安珍を、嫉妬で逆上した清姫が追いかける。ついには蛇の姿と化し、日高川の激流を泳ぎ渡っていくのであった。

蛇体に変化する清姫の顔の仕掛け、クライマックスでの太夫と三味線の合奏など、文楽ならではの魅力に満ちた作品です。



写真 青木信二

壱坂観音霊験記～沢市内より山の段

盲目の沢市は、夜な夜な家を抜け出す妻・お里の浮気を疑っていた。それを知り驚いたお里は、沢市の眼が開くように毎夜観音さまにお参りをしており、今日がその満願の日なのだと告白する。得心した沢市は、妻に謝り、二人で壱坂観音に参詣する。沢市は自分の事でお里に苦勞をかけることがないので谷底へ身を投げる。お里もまた、絶望の余り夫の後を追って自殺をはかる。

すると、谷底へ慈悲の神として知られる観音様が現れる。観音様はお里の信仰心の篤さを褒め、夫婦愛の絆から二人を蘇らせると同時に、沢市の眼も開眼させる。目覚めた二人は、お互いに喜び合

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

い、観音様に感謝をするのであった。

文楽の演目の中では珍しくハッピーエンドで終わる本作は海外各地で好評です。ストーリーの明快さのみならず義太夫節の音楽性の高さもあって名作の一つとされています。

雅楽の演奏グループとして世界各国で公演をしている伶楽舎。
今回の公演ではダンサー森山開次が現代雅楽作品を舞います。

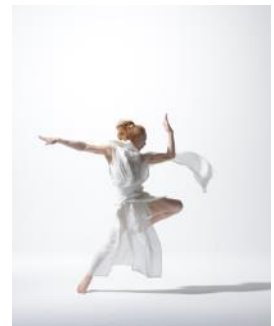
伶楽舎×森山開次

伶楽舎は雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や現代作品の演奏に積極的に取り組み、国内外で幅広い活動をしており、現代作曲家へも定期的に古典雅楽様式の新作を委嘱しています。今回の公演ではそんな伶楽舎ならではのプログラムが組まれています。第一部『露台乱舞』は平安時代から室町時代にかけて宮中で行われていた音楽行事を、音楽監督の芝祐清が復曲、構成したもので、音楽や歌、舞で構成された宴が再現されており、雅楽の初心者にとっても親しみやすい内容の作品です。

また第二部では伶楽舎が委嘱し初演された権代敦彦の『彼岸の時間』（2003、2018 改訂）と猿谷紀郎の『綸綬(りんじゅ)』（2010）を、現代日本を代表するダンサー・振付家の一人、森山開次演出振付によるコンテンポラリーダンスとのコラボレーションで世界初演。舞台美術には、日本古来の岩絵具を用いたスケール感ある作品のインスタレーションをパリの教会や世界遺産など国内外で展開し、国際的に評価の高まっている美術家・大船真言の新作「VOID」が登場。ヘアメイク・松本順、衣裳・大脇幹裕と、新進気鋭のアーティストが結集し、新体操元日本代表選手を含む 4 名の女性ダンサーとともに創作される舞台に注目が集まります。



©Jérémie Souteyrat



©Isamu UEHARA (Sun-Ad)

世界初の太鼓独奏者・林英哲と彼が育て上げた実力派太鼓ユニット・英哲風雲の会による伝統と革新が織りなすライブパフォーマンス。

太鼓 林英哲と英哲風雲の会

林英哲は 1982 年に太鼓独奏者として活動を開始、現在の舞台パフォーマンスとしての「日本の太鼓」の礎づくりに貢献し、ロック、ジャズ、クラシック、現代音楽、民族音楽など、様々なジャンルの演奏家らと垣根を越えた音楽作りをし、和太鼓の伝統とは一線を画した独自の太鼓の表現を築き上げてきました。美術家の生涯をモチーフにしたシリーズなど、太鼓によるオリジナルな舞台作品を多く生み出し、独創的な演奏家として国内外で広く活動しています。

英哲風雲の会は日本各地で活躍する若手太鼓奏者の中から、林英哲の音楽に共鳴する実力者で構成される次世代を担う俊英たちの集まりです。単独で国内外の公演も行い、その圧倒的な迫力とライブパフォーマンスは大反響を呼んでいます。

革新的な表現を兼ね備え、太鼓の響きを身体中で体感すると同時に、和の伝統的な演出も垣間見ることができる彼らのパフォーマンスに、フランスの聴衆も大いに盛り上がることでしょう。



©M.Tominaga



©S.Oguma

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

400年の伝統を有する日本舞踊。

人間国宝・井上八千代、富山清琴をはじめ、伝統を受け継ぐ現代を代表する舞踊家が、日本舞踊の真髄を披露。

日本舞踊

日本舞踊は約400年にわたって受け継がれてきた日本の伝統舞踊です。日本舞踊ならではの独特のリズムから生まれる身体の動きは、時に繊細、時に躍動的で観る者を魅了します。今回の公演では日本舞踊の代表的な演目である『藤娘』、『八島』、『連獅子』を上演します。

『藤娘』は、藤の花の精が踊るという幻想的な作品で、美しい衣裳も見どころです。それとは対照的に『連獅子』は、獅子に扮した二人の舞踊家が勇壮に踊るダイナミックな演目です。そして『八島』は、人間国宝・井上八千代が、同じく人間国宝・富山清琴の地唄とともに迫真の舞を披露します。日本における舞の多彩な演目を、一流の舞踊家、演奏者による最高の舞台でお届けします。



『藤娘』



『連獅子』



『八島』

©Tomoko Ogawa

日本現代演劇の旗手・岡田利規(チェルフィッチュ主宰)が生み出す、演劇の起点かつ新領域。

現代演劇シリーズー岡田利規演出

『三月の5日間』リクリエーション、『プラータナー：憑依のポートレート』

チェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーション：アメリカ軍がイラク空爆を開始した2003年3月21日を含む5日間を過ごす数組の若者たちの日常を描き、当時の社会不安を浮き彫りにした『三月の5日間』。独特の言葉と身体性を用いた手法で日本現代演劇の潮流を変え、2005年岸田國士戯曲賞を受賞した本作を、90年代生まれの若い俳優とともにリクリエーションし、作品の新境地を切り拓きます。

日タイ国際共同制作プロジェクト『プラータナー：憑依のポートレート』：タイの気鋭小説家ウティット・ヘームムーンによる『プラータナー：憑依のポートレート』を岡田利規が舞台化。1990年代初頭から2017年のタイに生きる芸術家の半生と性愛遍歴を描きながら、同じく芸術家であり同世代でもある岡田とウティットが自身の半生を投影し、日本とタイの〈今〉を映し出します。



撮影：前澤秀登



photo: Tananop Kanjanawutisit

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

《生活文化他》

禅に関わる書画・庭園・茶道などを取り上げた映像上映や展示、坐禅会、写禅語体験、老師による講演を通し禅の精神を伝えます。

禅文化週間

臨済宗黄檗宗連合各派合議所/禅文化研究所と協力し、禅の文化を多角的に紹介する「禅文化週間」を設けます。

雲水（修行僧）の修行の様子や主たる禅文化である書画、庭園、茶道などを紹介する特別制作映像の上映や写真パネルの展示、坐禅の体験、毛筆で禅語を模写する「写禅語」を計画するほか、メイン企画として、禅の指導者である老師による講演を予定しています。

フランスの人々が禅の精神に体験的に触れることができる一週間を通じて、西欧諸国では「クール」と捉えられている「ZEN」本来の精神を伝え、茶道、いけばな、能など、多くの日本文化の源流とも言える禅への理解を深める機会を創出します。
本プロジェクトの一部はヨソ地方へ巡回します。



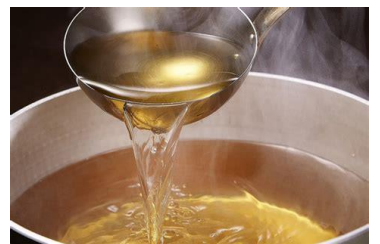
西村 恵学

日本の味覚を楽しむだけではありません。アートと食の関わり、地方文化としての郷土食、学際的な食研究、日仏文化におけるお茶の位置付けといった、さまざまな切り口から食の本質に迫り、日仏が共に考えるきっかけ作りをします。

「日本の食と文化を考える」シリーズ

日本の食文化に多角的、学術的にアプローチし、味わいを楽しみつつ、その魅力の本質について日仏共同で考え、話し合います。

プロジェクト第2弾は、「ユネスコ・ジャパン・ウィーク 2018」で開催される「日本へのクリエイティブな旅展」特別企画の「日本のガストロノミー-地方の食文化を中心として」。日本各地の郷土料理に焦点を当て、シンポジウム、展示、デモンストレーションを通じて、和食文化、日本文化の幅と奥行きを総合的に考察します。



報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

● Report from Paris

フランス政府からの招待で初の公式訪問

皇太子殿下、エッフェル塔ライトアップやヴェルサイユ宮殿で開催された「幽玄」、松竹大歌舞伎、若冲展と、ジャポニスム 2018 公式企画をご訪問。

9月、日仏の外交関係樹立160周年を記念したフランス政府からの招待で、皇太子殿下がフランスをご訪問されました。皇太子殿下が渡仏するのは、平成3年にモロッコ国・英国を訪問する途次に立ち寄って以来27年ぶり。公式訪問としては初となります。

7日に羽田発の政府専用機でリヨンに到着され、リヨン市長主催の昼食会に出席されるなどの後、10日にパリへ移動。12日から13日にかけて、パリを中心に様々な日本芸術・文化を紹介している「ジャポニスム 2018」公式企画をご訪問されました。

出発前に宮内記者会代表質問にお答えされた皇太子殿下は、パリでご鑑賞予定の「ジャポニスム 2018」について「今後両国間の交流と友好親善が更に深まることを期待しています。特に今回の訪問では、歌舞伎や能公演、若冲展といった行事に出席する予定ですが、こうした日本の伝統文化や、最近のポップカルチャーがフランスにおいてどのように評価され受け入れられているのかについて、実際に肌で感じ取れることを楽しみにしています。」と、こころ待ちにされている様子をお話されました。

パリに到着された皇太子殿下は、12日には、パリ郊外のヴェルサイユ宮殿で開催された宮本亜門演出 能×3D映像『YUGEN 幽玄』をご鑑賞され、同じヴェルサイユ宮殿でマクロン大統領主催の晩餐（ばんさん）会に出席。翌13日には、宮内庁三の丸尚蔵館蔵の若中最高傑作、『動植綵絵』を、相国寺蔵の『釈迦三尊像』と共に紹介している「若冲—〈動植綵絵〉を中心に」展をご鑑賞されました。展覧会ご鑑賞後、同行記者団からフランス公式訪問の感想をきかれると、「フランスの方々が日本に大変高い関心を寄せていただいていること、日本について知ろうとしていることを実感いたしました」と述べられました。続いて、国立シャイヨー劇場で行われた松竹大歌舞伎を鑑賞された皇太子殿下は、公演前に出演者である中村獅童さん、中村七之助さんらを激励し、「色彩間苺豆（いろもようちよとかりまめ）」と「鳴神」の両演目をご鑑賞されました。

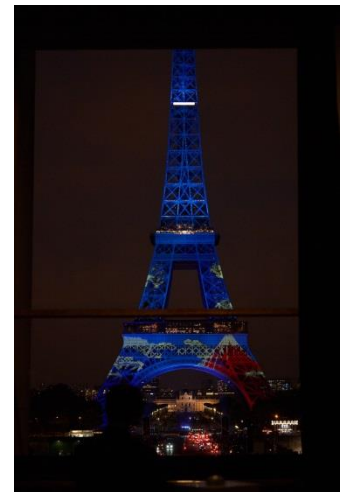
また、同日に行われたエッフェル塔特別ライトアップ「エッフェル塔・日本の光を纏う」の点灯式にも出席され、皇太子殿下の点灯により、世界的な照明デザイナーの石井幹子さんと長女の石井リーサ明里さん親子による演出で、白ライトアップされたエッフェル塔に真っ赤な太陽が昇ったり、尾形光琳の燕子花が咲き乱れる趣向の日本の光を纏う様子などをご鑑賞され、15日に日本に帰国されました。



©KOS-CREA



©Pierre GROSBOLS 2018



©KOS-CREA

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



松竹大歌舞伎 パリ公演 大盛況のうちに終演 「日本の華麗な芸術」とパリが絶賛！！

2018年9月13日～19日に行われた「松竹大歌舞伎」（主催：国際交流基金、国立シャイヨー劇場、文化庁、共催：フェスティバル・ドートンヌ・パリ、製作：松竹株式会社、協賛：ANA）が大盛況のうちに終演をむかえました。

パリデビューとなる中村獅童さん及び中村七之助さんを迎えた本公演は、国立シャイヨー劇場のシーズンオープニングとして多くの注目を浴び、カーテンコールは拍手喝采で迎えられるほど。目の肥えたパリの観客からは「中村獅童演じるユーモラスな僧侶が荒々しく大胆に変化していく姿が印象的だった」「中村七之助演じる姫君の優雅な身振りに見とれた」などと絶賛。19日（水）の千穉楽までに、累計約8,000人の観客を魅了しました。



©松竹株式会社

【地元メディアも絶賛】

- ・ 「シャイヨー劇場で、日本の伝統芸能 歌舞伎 2 作品が上演された栄誉」（フィガロ紙記事（抜粋）
古典演目2作品が、フェスティバル・ドートンヌの一環として国立シャイヨー劇場にて上演された。この華麗な芸術がフランスで公演されたのは非常に稀な機会であり、一大イベントである。
- ・ 「シャイヨー劇場で松竹大歌舞伎が上演」（フィガロスコープ誌（抜粋）
歌舞伎は文字通り、歌、舞、演技から構成されるもので、この芸能においては姿勢や立ち居振る舞いの細部にこそ重きが置かれる。（中略）今回のプログラムは、豪快な技の魅力と、繊細な表現の美しさが双璧をなす傑作である。

■公演 日程 2018年9月13日（木）～19日（水） ※フランス時間9月19日（水） 20：30 千穉楽
演目 『色彩間苺豆（いろもようちよとかりまめ） かさね』『鳴 神（なるかみ）』

■オフィシャル素材（報道向け提供素材）

- ・記録映像（約10分） ※編集可能な素材をご提供いたします。
- ※プレビューはこちらからご覧いただけます。 <https://www.youtube.com/watch?v=FsOsnWXJuJs>
- ・写真 ※記録映像、写真ともに別途申請書をご提出いただけます。

■松竹「歌舞伎美人」レポート「パリ」松竹大歌舞伎」、喝采で迎えられた獅童、七之助
<http://www.kabuki-bito.jp/news/4964>

■参考情報

- ・ 会場となったシャイヨー劇場は、フランス国内にある5つの国立劇場の一つ。1939年に創立され、パリ市内でもプレステージ性が高く、欧州でも権威ある代表的な舞踊劇場文化施設の一つとして知られています。シャイヨー宮内に位置し、エッフェル塔を正面に構える、抜群のロケーションにある劇場です。
- ・ フランスにおける歌舞伎の初演は1965年（七之助さんの祖父、十七世勘三郎さんも参加）。今回は11度目の公演です。

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子
住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル
TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

ジャポニスム 2018 広報大使の香取慎吾さん 個展開催前日に歓迎レセプションを開催



「ジャポニスムを通じてさらに日本を知ってほしい」

ジャポニスム 2018 の広報大使を務める香取慎吾さんのパリでのお披露目式と、2018 年 9 月 19 日（水）より開催される香取慎吾さんの海外初個展「香取慎吾 NAKAMA des ARTS」展のレセプションパーティーを兼ねたイベントが、9 月 18 日（火）にパリ日本文化会館にて開催されました。レセプションには、木寺昌人駐フランス大使や、9 月 19 日（水）からパリ市立劇場エスパ・カルダンで「三番叟」などの公演を行う野村萬斎さん、ティエリー・ダナ前駐日フランス大使をはじめ、フランスワーズ・モレシャンさんやフランスのジャーナリスト、カルチャー・アート関係者も多数出席されたほか、急遽、日本から稲垣吾郎さんと草薙剛さんも駆けつけました。

会の冒頭、ジャポニスム 2018 の事務局である、安藤裕康国際交流基金理事長が「先週は皇太子さまが、今週は香取さんがいらっしゃいました。香取さんは、歌手、俳優として大活躍している著名人。美術の分野でも芸の幅を広げていて今回の個展につながりました。今日はフランスの方々に紹介したいと開催のご挨拶。続いて、木寺昌人駐フランス大使より、「今ジャポニスムは最高潮を迎えています。すべての分野で発揮される才能に感服しました。香取さんは上手にジャポニスムの広報をしてくれると思います」と祝辞のスピーチをいただきました。香取さんは、「本日はこんなたくさんの方々がお越しいただき嬉しいです。ジャポニスム 2018 広報大使を務められて幸せです。ルーブルで人生初の個展を開催できることを皆さんに感謝しています。今、幸せがあふれています」と個展開催の喜びと、広報大使としての意気込みを語られました。

スピーチの後、壇上の香取慎吾さん、木寺昌人駐フランス大使、ティエリー・ダナ前駐日フランス大使、安藤裕康理事長の 4 人に加え野村萬斎さんも登壇。野村萬斎さんの掛け声で鏡開きをして、香取慎吾さんのパリでのジャポニスム 2018 広報大使のお披露目と海外初個展の船出を祝いました。

稲垣吾郎さんは「ジャポニスム 2018 の広報大使やルーブル美術館での個展は誇りですし、こちらも緊張しています。ルーブル美術館という場所で彼の絵を見られて感激しました」と語り、草薙剛さんは「ジャポニスム 2018 の広報大使就任にあやかって僕も鼻が高くなった気分です。作品は今まで見てきましたが、ここへ来るために 1 つ 1 つの制作があったのではないかと展覧会での感想を述べました。

■「香取慎吾 NAKAMA des ARTS」展

- ・期間：2018 年 9 月 19 日（水）～10 月 3 日（水）
- ・会場：カール・ゼル デュ ルーブル シャルル 5 世ホール
- ・主催：株式会社モボ・モガ
- ・共催：国際交流基金
- ・後援：木下グループ
- ・協力：ルーブル美術館

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」とは

日仏友好 160 年の本 2018 年、両国政府間合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」を開催中。パリ内外の 100 近くの会場を舞台に、約 8 か月間に亘り、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化までを含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介します。会期を通じ、約 70 の公式企画の実施。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えます。

会期：2018 年 7 月～2019 年 2 月

事務局：独立行政法人国際交流基金

公式ウェブサイト：<https://japonismes.org/>



報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp